

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分  
 【発行日】平成30年5月10日 (2018.5.10)

【公表番号】特表2017-510370(P2017-510370A)  
 【公表日】平成29年4月13日 (2017.4.13)  
 【年通号数】公開・登録公報2017-015  
 【出願番号】特願2016-560977(P2016-560977)  
 【国際特許分類】

A 6 1 F 2/82 (2013.01)

A 6 1 M 25/00 (2006.01)

【F I】

A 6 1 F 2/82

A 6 1 M 25/00 6 3 0

【手続補正書】  
 【提出日】平成30年3月26日 (2018.3.26)  
 【手続補正 1】  
 【補正対象書類名】特許請求の範囲  
 【補正対象項目名】全文  
 【補正方法】変更  
 【補正の内容】  
 【特許請求の範囲】  
 【請求項 1】

患者の腎臓に配置されるように構成された腎セクション、前記腎セクションに接続されかつ前記患者の尿管に配置されるように構成された尿管セクション、および前記尿管セクションに接続された近位セクションを有する、本体部であって、前記近位セクションが前記尿管セクションから離れて前記本体部の近位端に位置する自由端まで延在する、本体部と、

ステントの前記本体部に接続された系を含む尾部と、

を含む、尿管ステントであって、

前記近位セクションはチューブ状であり、

前記近位セクションが第 1 の材料と前記第 1 の材料より高い可撓性の第 2 の材料とで形成され、前記尿管セクションが前記第 1 の材料から形成され、前記第 1 の材料が前記ステントの前記近位セクションの前記自由端の方向において前記高い可撓性の第 2 の材料によって次第に置換されるように、前記近位セクションの前記第 1 の材料の厚さが前記尿管セクションから前記自由端に向かう方向において薄くなり、前記近位セクションの前記第 2 の材料の厚さが前記尿管セクションから前記自由端に向かう方向において増す、

尿管ステント。

【請求項 2】

前記ステントの前記近位セクションが一定の厚さの外側壁に画定された一定の直径の長手方向のチャンネルを有する、請求項 1 に記載の尿管ステント。

【請求項 3】

前記近位セクションが貫通開口部を含む、請求項 1 に記載の尿管ステント。

【請求項 4】

前記貫通開口部がスリット又は孔である、請求項 3 に記載の尿管ステント。

【請求項 5】

前記スリットが前記近位セクションの長手方向又は横断方向に延在する、請求項 4 に記載の尿管ステント。

【請求項 6】

前記近位セクションが円錐状の内側凹部を有し、前記近位セクションの外側壁の厚さが前記ステントの前記尾部に向かって薄くなる、請求項 1 に記載の尿管ステント。

【請求項 7】

前記近位セクションが螺旋形状として構成される、請求項 1 に記載の尿管ステント。

【請求項 8】

前記近位セクションが前記外側壁の厚さ部分に形成された長手方向凹部を含む、請求項 6 に記載の尿管ステント。

【請求項 9】

前記近位セクションがスリット付きの環状断面を有する、請求項 1 に記載の尿管ステント。

【請求項 10】

前記尾部が前記近位セクション又は前記尿管セクションと一体である、請求項 1 に記載の尿管ステント。

【請求項 11】

前記近位セクションにおける前記ステントの本体部分の可撓性の係数が、 $200\text{ N/m}^2$  以下である、請求項 1 に記載の尿管ステント。

【請求項 12】

前記尾部が前記本体部の前記近位端に接続される、請求項 1 に記載の尿管ステント。

【請求項 13】

前記近位セクションの長さに沿った前記第 1 の材料および前記第 2 の材料の総厚が一定である、請求項 1 に記載の尿管ステント。